

中部経産局が「工場長」育成

豊田織機・デンソー・名工大と連携

中小にノウハウ伝授

来秋めど

【名古屋】中部経済産業局は06年10月をめどに、豊田自動織機、デンソー、名古屋工業大学と共同で中小製造業の「工場長」を育てる人材育成支援事業をスタートする。東海地域の自動車部品関連の中小メーカーが対象で、約4カ月間かけ工場長候補の人材を指導。大手企業を持つ工場管理ノウハウなどを伝授する。地域の産学官を挙げて中小製造業の人材育成を支援し、産業基盤の強化、底上げを図る。

この支援事業は自動車部品関連で従業員50人規模の中小メーカーを対象として想定。当初は20の参加企業（1社1人）でスタートする予定で、06年8月をめどに参加企業を最終決定する。

具体的には6社前後を1グループとし、持ち回りで各社の工場を訪問。各生産現場の課題を題材に、問題解決や改善活動などに取り組み。それら現場での実践を通じて、参加各社の工場長候補の

人材のレベルアップを図る。

講師は名古屋工業大学のほか、豊田自動織機、デンソーの子会社のデンソー技研センターと浜名湖電装（静岡県湖西市）の3社から工場長経験者を派遣する。育成支援に

より効率的な生産ラインの技術や改善活動のノウハウ、人材活用などを習得できるという。

団塊世代の大量退職による「2007年問題」を受け、大企業は技能伝

承など社内の人材教育を活性化させている。ただ、中小企業は独自で教育体制を整えるのは難しく、資金面の余裕もないことから深刻さはより大

きい。特に自動車部品関連は、地域の基幹産業だ

けに危機感が強い。

このため地域の産学官が一体となり、人材育成に乗り出すことにした。

この支援事業は経済産業省が全国で推し進める「産学連携製造中核人材育成事業」の一環として取り組む。